

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 5 回社会教育委員会議	
開催日時	平成 31 年 3 月 27 日 (水) 午後 2 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 5 階 交流ホール 2
出席者	<p>【社会教育委員】 岡 昌子、小川 崇、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、 田中 宏和、本間 莉恵、山田 久美子、渡邊 彩 計 9 名 (欠席：伊比 宗宏、田中 一昭) * 敬称略</p> <p>【事務局】 教育次長、地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、中央図書館館長補佐、 生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐 生涯学習センター職員 4 名 計 11 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 教育委員との懇談会について 3 月 14 日に開催された「教育委員と社会教育委員との懇談会」について、各参加委員が報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・もう少し教育委員の視点も聞けると、また発見があるのではないかと思った。 ・PTA と教育委員との懇談会など、ほかの団体との懇談の様子やどのような成果が出ているかも参考にしていきたい。</p> <p>(2) 白根高校生によるスマホ講座について 報告 1 に基づき、中央公民館長が講座概要の説明を行いました。続けて、笹川委員が参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>(3) 全国社会教育研究大会新潟大会推進委員会 参加報告 報告 2 に基づき、雲尾議長が参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒特に質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 平成 31 年度 社会教育関係団体補助金について 協議 1 に基づき、各担当課から説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・文化協会補助金とは、具体的にどこの地域でどのような活動に使われているのか教えてほしい。 ⇒協会としての文化活動、例えば文化祭や芸能祭について補助金の対象となっている。</p> <p>(2) 調査研究グループについて 協議 2 に基づき、事務局から調査研究グループ編成について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p>

<p>内 容</p>	<p>(2) 第 6 回社会教育委員会議の日程について 協議 3 に基づき、事務局から第 6 回社会教育委員会議の日程について説明を行いました。 ⇒次回会議は、5 月 29 日水曜日とする。</p> <p>4 事例研究</p> <p>(1) 「社会教育施設」を舞台にした循環型生涯学習について（第 32 期建議から） 第 32 期建議「『学びの循環』による人づくり」から、「社会教育施設」について提言した内容について、小川副議長が説明しました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 「結いの会」の活動について 事務局から「にいがた市民大学」について説明した後、「にいがた市民大学」の自主グループ「結いの会」の活動について、会員の本田さんと山崎さんから紹介がありました。 【主な質問・意見等】 ○市民大学の前半は座学で、後期はゼミナールがある講座とない講座がある。 前期の内容を頭に入れた段階で、講座を受けたメンバーがどのように後期のゼミナールを受講するのか。そしてそこから例えば「結いの会」に入るとい うプロセスがどのようになっているのか教えてほしい。 ⇒後期講座のゼミナールを学ぶために、前提として前期講座を学び、それを 深めるために後期のゼミナールというところもある。後期講座は、一つの テーマに合わせて現地学習をしたらその内容について皆さんで話し合い、 討論会をするということを繰り返す、最終的には論文集を作るために、皆 で学び合い、話し合いを深めるということを繰り返した。この講座だけで なく、ほかの講座もほとんどそういう形で、学び合い、話し合い、そし て話し合いということを繰り返す、大学のゼミナールに近い形を実施しよ うということで進めた。 ⇒後期講座に手を挙げる人たちというのは、何か教わろうとか、何かやろう という人たちだけが残るので、そういう意味では意識が高く、活動も皆が やるというところはあった。 ⇒事務局としては、ゼミが始まることから、将来的にはこのメンバーがグ ループ化して、益々発展することを願っているということをずっと言い続 け、終わるときには次回、卒業式で集まりましょうと言って終わり、次に 集まったときに会を結成しましょうという形で、それがスタートラインと なって進むということが多かった。</p> <p>○会の中で、討論、話し合いをされているということだが、普通のサークルの 活動形態では、討論をする場面というのがあまり多くない感じがする。具 体的にどういうテーマで、どのように進められているかをお聞きしたい。 ⇒基本的には、やりたい人がやりたいことをやりたいようにやるということ があり、提案について全員でディスカッションをすることが多い。言った ことを取り下げさせるということではなく、ただプラスアルファをしたいと か、こういうことはどうだろうかというようなことを常に話し合いながら、 まとめていく。やりたいと言った人に、皆さん応援しようという形に なっているので、とてもいい循環になっている。ただついていっただけで</p>
------------	---

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

<p>内 容</p>	<p>も受け入れてくれ、1 回も手を挙げてやりたいと言っていない人でも、5 回、6 回やりたいと言ってやっている人でも大丈夫という関係になっている。 ゼミに残る方々はパワーがある方が多く、その方々がもっているパワーがまた広がっていくので、「結いの会」結成当時よりも今のほうがメンバーはパワフルと感じる。</p> <p>○社会教育で目指すのは、ただのサークル化ではなく地域還元ができるところまでもっていくところだが、現実的に大きな課題として、例えば公民館では予算的な面でもそのほかの面でも、10 回講座をやれるような館はなかなかない。後期ゼミがあるから信頼関係ができサークル化につながるということなので、ただ講座をやれば良いという話でもなく、いろいろな問題が重なっているということを感じた。</p> <p>○市民大学は楽しみに毎年参加する方もいる。「結いの会」の方の中でも継続して受講して、ほかの自主グループにも参加している方もいると思うが、「結いの会」では、ほかのサークルと連携している活動はあるか。 ⇒市民大学を受講し始めたらすごく面白いというのが分かり「結いの会」に入ったが、自転車の会や、食の安全の会など、同じ人がいくつかの会に重なり参加して、そこでまた輪を広げる方もいる。どこかの会に入ることによってその面白さが分かり、その個人も広がっていく。その個人が広がることによって、違う方も引っ張ったり押してあげたりする関係も出来上がるのではないかと。市民大学が継続していることが、その会の継続と重なり合っていると思うこともあり、毎年、卒業生は楽しみにしている。</p> <p>○総会には何人くらい出席するのか。 ⇒よほどのことがない限り、19 名のメンバー全員が出席する。 総会で集まり、今年 1 年何をしようかということをお互いに話し合い、いつごろに A さんがこれ、B さんがこれ、C さんがこれと、大体の大きな枠をつくり、そこに自分がやりたいことをどう突っ込むかと考える方もいる。皆さんが参加して、面白いから行こうという話をしている。</p> <p>6 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0 名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期新潟市社会教育委員会議（第 5 回）次第 ・ 報告 1 平成 30 年度白根地区公民館主催「CC 講座」概要説明 ・ 報告 2 全国社会教育研究大会新潟大会推進委員会 参加報告 ・ 協議 1 平成 31 年度 社会教育関係団体補助金 ・ 協議 2 第 33 期新潟市社会教育委員会議調査研究グループ（案） ・ 協議 3 第 33 期社会教育委員会議 建議策定スケジュール（案） ・ 事例研究 市民大学 OB 会「結いの会」自主活動から地域還元へ